

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300487		
法人名	社会福祉法人 名北福祉会		
事業所名	グループホームめいほくユニットさくら		
所在地	愛知県名古屋市長区上飯田南町5-53		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&jirvosyoCd=2390300487-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和6年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の保育園が隣接している(中庭でつながっている)ので、保育園の子どもたちとの交流を大切にしている ・家族・知り合いといつでも自由に、面会・外出できる雰囲気づくり ・利用者がホームの中で自分の役割があり、居場所になること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2023年4月にスタートした当事業所の開設は地域の要望に基づくものであり、「人の役に立ちたい気持ち」がある利用者の気持ちに寄り添い、役割の実践を通じて自らの生活を築くことを柱として運営されています。更に「地域で暮らし続ける」との考えから利用者が町内会のメンバーとなり、会主催の夏祭りや餅つき、しめ縄づくり参加へと発展していることも秀逸な取組です。豊富な地域資源と地域住民の手助けも後ろ盾となり、個々の好みや習慣を支援して外出や面会ができる体制を整えているため、家族や友人の訪問が絶えず、また隣地のめいほく保育園とのふれあいでは利用者の笑顔や活気につながることも事業所の財産です</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のもと、事業所のめざすものをつくり、職員会議などで確認し、実践に生かしているがまだ職員全体にまで浸透していないこともある	「利用者が役割をもち生活する。これまでの生活習慣やその人らしさを尊重し(中略)外とかかわれる事業所づくり」を念頭におき、利用者が主役の生活を目標として掲げ、利用者の声を日課づくりに反映させています。実践は毎月のユニット会議で確認しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域で暮らすことを考え町内会に入会し参加できる行事には参加させてもらっている。今後は町内の防災訓練にも一緒に参加させてもらうよう自治会長さんとは話をしている	町内会の夏祭り、餅つき、しめ縄づくりに参加しています。徒歩圏内に公園、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、100円ショップがあり、地域資源が豊富で、坂がなく散歩や買い物には困りません。敷地内には法人が運営する喫茶店、隣には保育園があります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ建物の中にある喫茶店に来られるお客さんの介護相談や、悩みごとに対応できるようにしている。法人で取り組んでいる認知症カフェにも参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開所して1年にならないため、なかなかサービス向上に生かせていないが、事業所の状況については随時報告している	地域包括支援センターや町内会、家族の出席を得て、隔月開催が叶っています。メンバーは親身で、「アルコール消毒に係る機器は目につきやすい場所に置いたらどうか」「事業所の取組を回覧で廻したらどうか」といった有難い意見、提案が挙がっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分にできていない	名古屋市の一斉配信メールや名古屋介護ネットのホームページを確認して、情報漏れを防いでいます。また愛知在宅福祉サービス事業者懇談会における世話人を管理者が担うほか、地域包括支援センターからは入居照会もあり、行政と良好な関係を築いています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとはいえ、スピーチロックなどの理解も不十分。玄関は施錠してないが、階段、エレベーターはテンキーで施錠されている	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づいた身体拘束適正化委員会では、夜間せん妄や被害妄想対応などが議題に挙げられています。また指針には新規職員採用時には本件における研修実施が明記され、動画受講をおこなっています	委員会開催は3ヶ月のサイクルを超えることがないよう、4月、7月、10月、1月とすることを望みます(年度末の折、1月にできなくとも2月または3月に実施でき、3ヶ月毎の実施には叶うため)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については動画を使った研修や外部研修にも参加しているが、一部の職員にとどまっている。来年の義務化に向けて委員会の立ち上げや研修は法人内の高齢分野の事業所と一緒にやっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほとんどできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるとき説明は行っているが、十分といえるかどうかは不明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族からの意見や要望は聞くようにしているが、運営に反映することは不十分。ようやく家族面談をすすめている	「みなみ町福祉センターだより」を毎月家族へ送付し、カラー写真と共に日々の様子を届けるほか、面会でも都度状況を伝えています。要望は速やかに検討していますが、安全面を考慮すると改善できないこともあり、その時は丁寧にできない理由を説明しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することではないかもしれないが、定期的に労働組合と懇談を持ち、できることは改善に努めている	職員の要望から清拭用タオルウォーマー、折りたたみ机、風呂場呼び出しベルの導入実績がありますが、運営面への進言は特段ありません。定まった面談は年1回なもの、風通しの良い職場を目指し管理者は職員に声を掛け、必要に応じて面談の場につなげています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境を改善し、働きやすい職場をめざしているが、人間関係のトラブルでやりがいをなくし離職してしまう職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の経験別人材育成研修への参加、初任者研修など資格取得のための配慮(勤務調整)などは行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんどできていない。個人任せになっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け家族の要望などは聞き取りを行っているが、すべての職員ではない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分ではないが利用者と一緒に生活づくりを進めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている家族もいるが、関係の薄い家族もいる。全体にはまだ弱い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの生活でのかかわりが途切れないうにできることは支援している	社会福祉協議会主催の「認知症本人の会」へ入居前から通っていた利用者には職員が同行して継続しています。年賀状のほか、「毎日100CC牛乳を飲みたい」といった個別の習慣を大切に続けており、訪ねてきた友人がレクリエーションに参加することもあります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と利用者の関係だけでなく、トラブルになることもあるが利用者同士の関りを大切にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際にそのケースがまだない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活を大切にしながら実践を心がけているが、意向の把握が難しい方もいる	入所時には家族や本人から好みの食べ物、得意なことや生活習慣の情報を収集してアセスメントシートを作成しています。毎日の生活の中では、夜中にリビングのソファで1対1で話を聞くこともあり、新たな情報はスタッフルームのノートに書き留めて共有しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自分が使っていた道具や家具を持ち込むなどできるだけ住み慣れた環境に近づけるように努めてはいるが十分とは言えない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作品作りや、レクリエーションなどを通して、有する力などの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居されるとき意向や要望を反映し、計画を立てているが、現状に即した介護計画が追いついていない。	カンファレンスには家族も入るときもあり「チームでつくる」につなげています。例えば嚙下が向上したり、またその逆といった日常の変化は、職員間で支援の検討をおこなうものの、「計画に落とし込めていない」とのもどかしさを管理者は感じています	計画の見直しは短期目標を半年、長期で1年を目途とすることが望ましいものの、計画自体を更新するのは難儀なため、サービス内容の変化はモニタリング表に転載するなどして、日々の実践と振り返りを根拠の伴うものとするを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員も多いため、記録の書き方や実践の共有などに課題はあるが、ユニットの中で工夫しながら情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化はあまり実現できていない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで生活されていると暮らしを支えている地域資源を把握することが難しいが、これまでの付き合いなどインフォーマルサービスで外出などされるケースがある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の主治医と連携し、体調不良時の対応は迅速に行えていると思う	在宅の頃からの医師を続ける利用者が1名いますが、他は全て訪問診療に替えており、月に2回の診療は常勤の看護師が立ち合っています。専門医など家族が通院に付き添う例もありますが、眼科受診は職員がおこなうとしていて、都度相談のうえ対応しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係づくりは不十分		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面談の時に説明し、家族からの終末期の希望を聞き取りを行った	急変する可能性がある利用者、家族に対して「医療・ケアについての事前指示書」を用いて同意を得ていますが、その後も気持ちに配慮して柔軟な対応を図っています。医療は24時間オンコールと安心なもの、看取り経験者は2割程のため動画視聴による研修を備えています	「急変する可能性がある」としている態勢を「契約時に説明をおこない、予め意向を確認する」とすることを期待します(人の考えや気持ちは変わることがあるため、その後も引き続き確認する機会は設けることも必要であるものの)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員はまだできていない	法定訓練として位置付けられている年2回の実施を遵守していますが、非難誘導や水消火器の使い方といった各種メニューを全職員が体験していないことは課題としています。また消防署の立ち合いを求めたこともないため、今後取組の視野に入れていきます	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、呼称がどうかと思う時もある	1名が「ちゃんづけ」で呼ばれている状況にありますが、他は名前や苗字に「さん」づけで声をかけています。入浴は同性介助の希望に対応出来ており、トイレで見守りが必要な場合には中に入って背を向けているなど、羞恥心に配慮した対応があります	呼称は「自然にそうなった」ということがないよう、契約当初におけるアセスメントシートの作成を通じて、希望の呼ばれ方を本人だけでなく家族にも確認しておくことを望みます(その後に希望で変更があるときは家族の了解を得る)
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、洗濯できないときは職員の思い優先になってしまうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導の日課にならないように気を付けている。ユニット会議棟の機会に職員同士で確認する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など職員と一緒に好きな洋服を選ぶなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に盛り付けや配膳を行うようにしている。テーブルを拭いたり、お茶を出したりも利用者に関わってもらっている。感染症が心配な時以外は食器洗いや食器ふきも利用者に手伝ってもらっている	米飯は各ユニットで炊き、総菜は「みなみ町福祉センター」の厨房から届いています。日曜日のみユニットで調理をおこない、利用者もキャベツをちぎるなど手伝ってくださいます。また要望から始まった「味めぐり47都道府県」と称した献立も好評を博しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など忘れずにチェックし確保できているか確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後など個人に合わせた口腔ケアとその介助を行っている。定期的に訪問歯科の診療・ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主性を生かし、排泄が自立した方もいるが、基本は声掛けで誘導し、トイレでの排泄に努めている	布パンツが4名、紙パンツは21名といった状況にあり、平均介護度は2.44です。排せつチェック表を使用しており、自立している利用者は本人が記入しています。放尿がある利用者には「声をかけすぎでは」「見守り対応でしょうか」と職員間で検討し、結果として改善された例もあります	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ここに応じた予防とまではいかないが、バランスの良い食事の提供や、水分摂取の働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は決まった日に入浴しているが、その日の体調や気分の変更して対応することもある	入浴は週3回、通常は午後と決めています。体調が悪い場合は医師や看護師と相談してシャワー浴や清拭に変更したり、往診やイベントの都合で日や時間帯を変えることもあります。湯舟につきりながら歌を口ずさむ人もいて、職員も一緒に歌うこともあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によっては、居室のテレビをつけたまま、電気をつけたままなどこれまでの生活と同様にしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が理解しているかどうかは不明		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好きだったことや得意だったことを取り入れる、家事などの役割を担うなど、楽しく張り合いのある生活を送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩の希望には出来るだけ応えられるようにしているが、困難なことも多い、知り合いの方などが買い物に連れて行ってくれることもある	月数回はドライブを兼ねた外出支援をおこなって花の鑑賞や大学芋の試食を堪能しており、来年度は遠出や外食も計画しています。天気の良い日は事業所の屋上でリハビリをかねて30分ほど散歩や外気浴をし、サンルームのソファでゆっくりおしゃべりをして過ごすこともあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者への支援しかできていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者への支援しかできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りつけなど工夫し、季節を感じたり行事に向けて気持ちを盛り上げられるように工夫している	建物は外の空気を温度調節して循環させる換気システムを備えています。季節ごとに生花を飾るとともに、昔話を交えながら貼り絵や折り紙の制作を楽しみ、例えば「ひな祭りには何をしようか」「甘酒だよね」といった会話から利用者の気分を盛り上げています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは居間で過ごしていただくことが多いが、2~3人でおしゃべりを楽しめるよう椅子の配置を変えたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りしている	各居室にはベッド、エアコン、洗面台が備えられ、入居にあたっては仏壇やタンス、化粧品、家族写真などが持ち込まれています。本人が描いた水墨画が掲げられた部屋もあり、CDで好みの音楽を楽しむ人もいて、個別性が目を惹きます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	窓の開放制限や、エレベーターの施錠など安全ではあるが、自由を制限してしまっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300487		
法人名	社会福祉法人 名北福祉会		
事業所名	グループホームめいほく ユニットこすもす		
所在地	愛知県名古屋市区上飯田南町5-53		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&irvosyoCd=2390300487-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和6年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の保育園が隣接している(中庭でつながっている)ので、保育園の子どもたちとの交流を大切にしている ・家族・知り合いといつでも自由に、面会・外出できる雰囲気づくり ・利用者がホームの中で自分の役割があり、居場所になること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2023年4月にスタートした当事業所の開設は地域の要望に基づくものであり、「人の役に立ちたい気持ち」がある利用者の気持ちに寄り添い、役割の実践を通じて自らの生活を築くことを柱として運営されています。更に「地域で暮らし続ける」との考えから利用者が町内会のメンバーとなり、会主催の夏祭りや餅つき、しめ縄づくり参加へと発展していることも秀逸な取組です。豊富な地域資源と地域住民の手助けも後ろ盾となり、個々の好みや習慣を支援して外出や面会ができる体制を整えているため、家族や友人の訪問が絶えず、また隣地のめいほく保育園とのふれあいでは利用者の笑顔や活気につながることも事業所の財産です</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のもと、事業所のめざすものをつくり、職員会議などで確認し、実践に生かしているがまだ職員全体にまで浸透していないこともある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域で暮らすことを考え町内会に入会し参加できる行事には参加させてもらっている。今後は町内の防災訓練にも一緒に参加させてもらうよう自治会長さんとは話をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ建物の中にある喫茶店に来られるお客さんの介護相談や、悩みごとに対応できるようにしている。法人で取り組んでいる認知症カフェにも参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開所して1年にならないため、なかなかサービス向上に生かせていないが、事業所の状況については随時報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分にできていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとはいえ、スピーチロックなどの理解も不十分。玄関は施錠してないが、階段、エレベーターはテンキーで施錠されている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については動画を使った研修や外部研修にも参加しているが、一部の職員にとどまっている。来年の義務化に向けて委員会の立ち上げや研修は法人内の高齢分野の事業所と一緒にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほとんどできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるときの説明は行っているが、十分といえるかどうかは不明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族からの意見や要望は聞くようにしているが、運営に反映することは不十分。ようやく家族面談をすすめている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することではないかもしれないが、定期的に労働組合と懇談を持ち、できることは改善に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境を改善し、働きやすい職場をめざしているが、人間関係のトラブルでやりがいをなくし離職してしまう職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の経験別人材育成研修への参加、初任者研修など資格取得のための配慮(勤務調整)などは行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんどできていない。個人任せになっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け家族の要望などは聞き取りを行っているが、すべての職員ではない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分ではないが利用者と一緒に生活づくりを進めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている家族もいるが、関係の薄い家族もいる。全体にはまだ弱い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの生活でのかかわりが途切れないうにできることは支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と利用者の関係だけでなく、トラブルになることもあるが利用者同士の関りを大切にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際にそのケースがまだない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活を大切にした実践を心がけているが、意向の把握が難しい方もいる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自分が使っていた道具や家具を持ち込むなどできるだけ住み慣れた環境に近づけるように努めてはいるが十分とは言えない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作品作りや、レクリエーションなどを通して、有する力などの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居されるとき意向や要望を反映し、計画を立てているが、現状に即した介護計画が追いついていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員も多いため、記録の書き方や実践の共有などに課題はあるが、ユニットの中で工夫しながら情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化はあまり実現できていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで生活されていると暮らしを支えている地域資源を把握することが難しいが、これまでの付き合いなどインフォーマルサービスで外出などされるケースがある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の主治医と連携し、体調不良時の対応は迅速に行えていると思う		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係づくりは不十分		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面談の時に説明し、家族からの終末期の希望を聞き取りを行った		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員はまだできていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、呼称がどうかと思う時もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、洗濯できないときは職員の思い優先になってしまうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導の日課にならないように気を付けている。ユニット会議棟の機会に職員同士で確認する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など職員と一緒に好きな洋服を選ぶなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に盛り付けや配膳を行うようにしている。テーブルを拭いたり、お茶を出したりも利用者に関わってもらっている。感染症が心配な時以外は食器洗いや食器ふきも利用者に手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など忘れずにチェックし確保できているか確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後など個人に合わせた口腔ケアとその介助を行っている。定期的に訪問歯科の診療・ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主性を生かし、排泄が自立した方もいるが、基本は声掛けで誘導し、トイレでの排泄に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ここに応じた予防とまではいかないが、バランスの良い食事の提供や、水分摂取の働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は決まった日に入浴しているが、その日の体調や気分を変更して対応することもある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によっては、居室のテレビをつけたまま、電気をつけたままなどこれまでの生活と同様にしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が理解しているかどうかは不明		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好きだったことや得意だったことを取り入れる、家事などの役割を担うなど、楽しく張り合いのある生活を送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩の希望には出来るだけ応えられるようにしているが、困難なことも多い、知り合いの方などが買い物に連れて行ってくれることもある		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者への支援しかできていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者への支援しかできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りつけなど工夫し、季節を感じたり行事に向けて気持ちを盛り上げられるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは居室で過ごしていただくことが多いが、2~3人でおしゃべりを楽しめるよう椅子の配置を変えたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	窓の開放制限や、エレベーターの施錠など安全ではあるが、自由を制限してしまっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300487		
法人名	社会福祉法人 名北福祉会		
事業所名	グループホームめいほく ユニットしらゆり		
所在地	愛知県名古屋市区上飯田南町5-53		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kan1=true&irvosyoCd=2390300487-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和6年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の保育園が隣接している(中庭でつながっている)ので、保育園の子どもたちとの交流を大切にしている ・家族・知り合いといつでも自由に、面会・外出できる雰囲気づくり ・利用者がホームの中で自分の役割があり、居場所になること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2023年4月にスタートした当事業所の開設は地域の要望に基づくものであり、「人の役に立ちたい気持ち」がある利用者の気持ちに寄り添い、役割の実践を通じて自らの生活を築くことを柱として運営されています。更に「地域で暮らし続ける」との考えから利用者が町内会のメンバーとなり、会主催の夏祭りや餅つき、しめ縄づくり参加へと発展していることも秀逸な取組です。豊富な地域資源と地域住民の手助けも後ろ盾となり、個々の好みや習慣を支援して外出や面会ができる体制を整えているため、家族や友人の訪問が絶えず、また隣地のめいほく保育園とのふれあいでは利用者の笑顔や活気につながることも事業所の財産です</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念のもと、事業所のめざすものをつくり、職員会議などで確認し、実践に生かしているがまだ職員全体にまで浸透していないこともある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域で暮らすことを考え町内会に入会し参加できる行事には参加させてもらっている。今後は町内の防災訓練にも一緒に参加させてもらうよう自治会長さんとは話をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ建物の中にある喫茶店に来られるお客さんの介護相談や、悩みごとに対応できるようにしている。法人で取り組んでいる認知症カフェにも参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ開所して1年にならないため、なかなかサービス向上に生かせていないが、事業所の状況については随時報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分にできていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとはいえ、スピーチロックなどの理解も不十分。玄関は施錠してないが、階段、エレベーターはテンキーで施錠されている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については動画を使った研修や外部研修にも参加しているが、一部の職員にとどまっている。来年の義務化に向けて委員会の立ち上げや研修は法人内の高齢分野の事業所と一緒にやっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほとんどできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるときの説明は行っているが、十分といえるかどうかは不明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族からの意見や要望は聞くようにしているが、運営に反映することは不十分。ようやく家族面談をすすめている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することではないかもしれないが、定期的に労働組合と懇談を持ち、できることは改善に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境を改善し、働きやすい職場をめざしているが、人間関係のトラブルでやりがいをなくし離職してしまう職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の経験別人材育成研修への参加、初任者研修など資格取得のための配慮(勤務調整)などは行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんどできていない。個人任せになっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け家族の要望などは聞き取りを行っているが、すべての職員ではない		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分ではないが利用者と一緒に生活づくりを進めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている家族もいるが、関係の薄い家族もいる。全体にはまだ弱い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの生活でのかかわりが途切れないうにできることは支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と利用者の関係だけでなく、トラブルになることもあるが利用者同士の関りを大切にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際にそのケースがまだない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活を大切にした実践を心がけているが、意向の把握が難しい方もいる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自分が使っていた道具や家具を持ち込むなどできるだけ住み慣れた環境に近づけるように努めてはいるが十分とは言えない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作品作りや、レクリエーションなどを通して、有する力などの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居されるとき意向や要望を反映し、計画を立てているが、現状に即した介護計画が追いついていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員も多いため、記録の書き方や実践の共有などに課題はあるが、ユニットの中で工夫しながら情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化はあまり実現できていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで生活されていると暮らしを支えている地域資源を把握することが難しいが、これまでの付き合いなどインフォーマルサービスで外出などされるケースがある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の主治医と連携し、体調不良時の対応は迅速に行えていると思う		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係づくりは不十分		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面談の時に説明し、家族からの終末期の希望を聞き取りを行った		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員はまだできていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、呼称がどうかと思う時もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、洗濯できないときは職員の思い優先になってしまうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導の日課にならないように気を付けている。ユニット会議棟の機会に職員同士で確認する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など職員と一緒に好きな洋服を選ぶなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に盛り付けや配膳を行うようにしている。テーブルを拭いたり、お茶を出したりも利用者に関わってもらっている。感染症が心配な時以外は食器洗いや食器ふきも利用者手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など忘れずにチェックし確保できているか確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後など個人に合わせた口腔ケアとその介助を行っている。定期的に訪問歯科の診療・ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主性を生かし、排泄が自立した方もいるが、基本は声掛けで誘導し、トイレでの排泄に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ここに応じた予防とまではいかないが、バランスの良い食事の提供や、水分摂取の働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は決まった日に入浴しているが、その日の体調や気分を変更して対応することもある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によっては、居室のテレビをつけたまま、電気をつけたままなどこれまでの生活と同様にしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が理解しているかどうかは不明		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好きだったことや得意だったことを取り入れる、家事などの役割を担うなど、楽しく張り合いのある生活を送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩の希望には出来るだけ応えられるようにしているが、困難なことも多い、知り合いの方などが買い物に連れて行ってくれることもある		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者への支援しかできていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者への支援しかできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りつけなど工夫し、季節を感じたり行事に向けて気持ちを盛り上げられるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは居室で過ごしていただくことが多いが、2~3人でおしゃべりを楽しめるよう椅子の配置を変えたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	窓の開放制限や、エレベーターの施錠など安全ではあるが、自由を制限してしまっている		